

第 20 回高知市総合教育会議 議事録（概要版）

1 日 時 令和 6 年 7 月 23 日 (火)
開会：午後 2 時 閉会：午後 3 時 30 分

2 開催場所 高知市役所たかじょう庁舎 6 階大会議室

3 出席者

(構成員)

高知市長	桑名 龍吾
高知市教育委員会 教育長	松下 整
委 員	谷 智子
委 員	西森 やよい
委 員	野並 誠二
委 員	森田 美佐

(市長事務部局)

副市長	神谷 美来
副市長	弘瀬 優
総務部部長	林 充
総務部副部長	山脇 弘道
総務部政策推進室長	甫喜本 博貴
政策企画課長補佐	村永 京介
政策企画課総合政策担当係長	清遠 佳澄
政策企画課主査	山影 奏絵

(教育委員会事務局)

教育次長	竹内 清貴
教育次長	植田 浩二
教育政策課長	岸田 正法
教育政策課長補佐	神岡 純子
学校教育課長	川元 雅一
学校教育課副参事	田邊 裕貴
学校環境整備課施設整備担当副参事	大黒 貴司

4 議 題 ・高知市立学校での水泳授業中の事故について

5 議事の経過

● 市長挨拶

(桑名市長)

本来ならばあってはならない、命を守らなければならない授業中に、児童が亡くなるという事故が発生した。市政を預かる者として、深く反省をし、皆様方にお詫びを申し上げます。そして、児童の御冥福をお祈りし、このような事態が二度と起こらないように努めてまいりたい。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に位置付けられ、「地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する事項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとする。」とされている。その事項は二つあり、一つは、「教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策」である。そして、二つ目は、「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずる恐れがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置」と記されている。今回、高知市立学校で生じた事故は、まさにこれに当たることから、市長として皆様方に御参集いただき、本日の総合教育会議を開催するものである。

7月5日に事故の報告を受け、「命が助かってもらいたい。元気に回復してもらいたい。」と祈る思いであった。午後9時頃に、お亡くなりになられたという知らせが届き、本当に辛く申し訳なく、断腸の思いであった。今もその思いは心にあり、二度とこのようなことが起こってはならないと改めて誓った。

児童の告別式では、御家族の方のお許しをいただき、告別式に参列をさせていただいたが、御家族や御親族の皆様には本当に丁寧に対応していただき、最後まで見送らせていただいた。その時、御家族や御親族、参列をされている皆様方から、「このような事故は二度と起こさないようにお願いします。安全な、高知市の教育現場であることをお願いします。」という言葉を受取り、この言葉に報いることができるよう、事故を検証し、二度と起こらない防止策を作っていかなければならないと思っている。

本日の会議では、事故に至るまでの経緯、事故の発生状況、事故が起きた後の状況についての説明と、今後、設置及び開催を予定している、第三者委員会の説明をさせていただきたいと考えている。

本来、最も安全・安心であるはずの学校現場でなければならない。もう二度とこのようなことが高知市の子供たちに起きないように、全力を尽くしてまいりたい。また、そのためにも、教育委員の皆様方の御意見を頂戴したい。

● 高知市立学校での水泳授業中の事故について、教育委員会事務局及び教育委員会から資料に沿って説明

● 議論

(桑名市長)

事務局から水泳授業中の事故についての説明、そして、教育委員会による学校に係る総点検及び事故の検証等について説明があった。委員の皆様方から御意見をいただきたい。

(西森委員)

亡くなられた児童の方、またその保護者のことを思うと、誠にいたたまれない思いである。私も子供を持つ保護者であり、学校や外に送り出すとき、安全に帰ってきてほしいと願い、「気をつけて行ってらっしゃい」と声をかける。

せめて安全に帰してほしいという、保護者の切なる思いを裏切ってしまった。このことについては、深く反省していただきたい。今回の事故を聞いたとき、私自身も教育委員として、教育行政に関する報告を承る立場として、これまで事務局に対して不断の緊張感をもって対処することを最後までお願いしきれていたかと、心の底から思った。そうした観点からは、既に多くの方が振り返り、反省され、検証されているところだと思うが、重ねて意見を申し上げたい。

先ほど教育次長から話のあった、組織として危機意識を持ち続けることができなかったことがこの事件の大きな原因であり、決して設備の問題ではないという点については、全くの同感である。事故は環境によって起きるが、それと同時に、人の心理面の油断から生じる。これは決して高等なことではなく、生活をする中で、常に緊張感を持って油断をせずに生きることで、自分の身を守っている。

今回の事故は、確かにプールの浄化装置の故障が発端となったかもしれないが、その後、子供たちの安全を絶対を守るという責任感と、何か見落としや子供たちに迫る危機に気付こうとする意識がどこかで抜け落ちてしまったことが大きな原因であったと思う。

もう一つ、強く申し上げたいのが、気付いたことについて声を上げる勇気を誰かに持っていたかかったかと思う。小学生を中学校のプールで泳がせることについて、大丈夫だと思った人は恐らくほとんどいないのではないかと。誰もが危なくないと頭をよぎったと思うが、その声はどこかで上がらなかったのか。今後、事実が検証される中で、そうした声が上がった場面があったかどうかを判明するかもしれないが、今回の報告からは分からない。学校は、理科や家庭科、校外学習にしても、常に危険が伴う活動をする場所である。教職員あるいは職員の皆様方に、ふと気付いたことについて、ぜひ声を上げていただきたい。言わなくても誰か気付くだらう、言わなくても子供たちが気をつけてくれるであろうということではなく、声を上げていただきたいと切に願う。これは、教員1年目であれ、校長先生であれ、同じ責務を負っていると思う。

また、管理職の方に改めてお願いをしたいのは、そうした声を拾う努力をしていただきたい。往々にして、意見を言う者は煙たがられる。しかし、意見を言う者や気付いた者に対して、よく言ってくれた、皆で検討しようと言ってくれるような、下から意見が言いやすい組織になっていただきたいと強く願う。

もう一つ、気付く機会を広げているのかどうかということを再度お聞きしたい。

中学校のプールで泳ぐ子供たちが本当に楽しそうに、何の恐怖感も持たずにいたのか、子供たちの表情を見てくださっていたのか。先ほど申し上げたが、他の行事をしているときでも同じである。県外で熱中症により児童が亡くなられた例も過去にある。日頃は、怖そうな顔や不安そうな顔といった子供たちの表情や態度に対して、恐らく多くの先生方は気付いてケアしてくださっていると思う。しかしながら、もしそこに教育のためには我慢が必要だという思いが少しでもあるのであれば、そういうことはしないでいただきたい。子供たちがどういった顔をしてこのプールに入っていたのか、もう一度よく振り返っていただきたい。気付く機会があったのではないかと思う。

先ほど市長から、児童生徒に危険が迫っているなど急迫の場面でこの会議が開かれるとして、この総合教育会議の意義について説明いただいた。このプールの事故は、時系列的には既に起きてしまった過去の事故である。しかしながら、現場の先生方が、今まさに自分が声を上げ、一人一人がこの学校にいる子供たちの責任に安全を負っているから、明日からでも気付いたことは会議で言おうという思いを持っていただけない限り、まだ危機は残っていると思う。

冒頭に申し上げたとおり、子供たちを安全に家に帰してほしいという保護者の思いを申し上げ、私からの意見とさせていただきます。

(松下教育長)

先生方という言葉、教師教育委員会事務局、そして私に置き換えて話を伺っていた。

教育委員会事務局として、何ができて、何が足りなかったのか。気付こうとする勇気、子供たちのために使えていなかったということは非常に反省をしている。学校に対しても、先ほど説明させていただいた総点検を通して、私自身の思いも伝えながら、教育委員会として先生方、校長会と一緒に考えていきたい。

意識が変わるためには、強い思いが必要であり、それが足りなかったと思っている。

(谷委員)

この度のことは、極めて重く、深刻なことであり、辛く苦しい思いである。保護者様、御遺族の皆様の悲しみは計り知れないと思うと、本当に言葉もない。

事故時の状況は今後明らかにはなると思うが、二度とこのようなことが起こらないよう、今後私たちがどうしていくべきか3点意見を述べさせていただきたい。

まず1点目は、子供の命を守るための危機管理体制について、市教委や学校を挙げて、根本から立て直す必要がある。今回のことは、リスクマネジメントがあまりに脆弱であったと言わざるを得ない。発生が予測される危機リスクを可能な限り回避することについてはこれまでも取り組んできたつもりだが、危機発生時に、危険を最小限に留めるための対策を整えておくことが必要である。危険性への想像力を、私たちがもっと働かせなければならなかったと強く思う。単に冊子や計画に基づき事業を進めるだけではなく、教育委

員会、そして全ての本市の教職員一人一人が、意識を高く持つことが重要である。

2点目に、保護者様をはじめ御遺族の皆様へ寄り添い続けることがとても大事なことだと思ふ。友達、先生、教育委員会も、いつまでもお子様のことを大事に思い続けるように、皆で今後のことをじっくり考えていきたい。

3点目に、長浜小学校の子供たち、特に4年生の子供たちへの手厚い相談体制が必要である。市教委、県教委からカウンセラーの派遣等の対応をしていただいていることは良かったと思ふ。もう実施されているかもしれないが、一人一人の子供との個人面談を定期的に行っていただければなお一層良いと思ふ。このような体験をした子供たちは、見た目には分からない非常に不安定なものを心の中に秘めていると思われ、その内面を理解してあげることが重要なことだと思ふ。一人一人を一層丁寧に見ていきたい。

(松下教育長)

意識を高く持つということ、我々もそこが足りなかったのだろうと思ふ。

今回の総点検については、文部科学省による施設点検に係るチェックリストを活用するが、施設の安全のみでなく、これを使う子供たちや先生方が意識できるように指導に当たり、点検表を通じてどのように子供たちの安全を確保するかという思いを込めて、先生方の心構えという言葉を使わせていただいた。夏休みにおける各学校の点検をお願いしており、提出された点検表を教育委員会で分析し、共に現地も確認しながら教育委員会としての力量を高めることを目指している。

二つ目にいただいた、寄り添い、思い続けることは、ずっとさせていきたい。

三つ目にいただいた、長浜小学校の子供たちへの手厚い対応について、できる限りのことを1学期末までにさせていただいたが、夏休み中も、カウンセリングができる体制づくりをしている。声を聞くことを大事にしながらやっていきたい。カウンセラーの派遣等については、県教委に当初から非常に早い段階からお世話になったことについてこの場を借りて御礼申し上げたい。

(野並委員)

再発防止に向けた観点から意見申し上げる。まずは、後日設置される予定の第三者による事故検証委員会の場に、できる限り詳細なデータを提供していただきたい。資料の2ページに、発生した事故について現時点で教委が把握している事項について記載がある。例えば、一人の方が、時系列では何分の段階だとどこにいて、どういう動きをされていたかというような、より詳細なデータを示すことが第三者委員会のときに役立つと思ふ。また、ここには書かれていないが、児童数やこれまでの人数体制、当日授業を受けていた人数、男女の数といった内容についても、検証していく上では必要となると考える。

私は医療関係の仕事をしており、病院において不慮の死が起こった際に、医療事故調査制度に基づき、特に時系列の個々の関係者の動きというのを示し、それを第三者の事故調査委員会に提出する流れをとっている。詳細なデータの提出により、再発を防止し、安全

を確保している。今回の事故検証委員会においても、そうした資料を整え、再発防止に向けて、徹底的に時間を費やしていただければと思う。

(松下教育長)

第三者の事故検証委員会において、今後徹底的に協議をしていただくに当たり、教育委員会が責任を持って調査し、できる限り詳細な資料を提出したい。ぜひ、アドバイスをいただきながら進めていきたいと思う。

第三者委員会に、第三者としての視点で話し合いを進められていただけるような資料を作成することは重要なことである。

(森田委員)

今回いくら検証しても、お子さんはもう戻ってこない。取り返しのつかないことが起こってしまったと考えている。しかし、二度とこうした事故が起きないために今日の会議があると認識している。私の方から、一個人として、保護者として、また、私自身が教員養成にも関わっている観点から考えたことを述べる。

一つは、経緯そのものに対する質問である。そして、事故の直接の要因ではないが、事故の背景にある学校そのものの再検討に関する2点について考えている。

まず一つは、プールの事故に関することについて質問したい。6月6日午後、保護者の方に、南海中学校でプールを実施する旨を連絡したとあるが、このときに保護者の方から声や連絡が一切なかったのかどうか教えていただきたい。

二つ目に、事故の背景にある学校そのものの再検討がいるのではないかという話をしたい。今回の件に関する新聞等を拝見して、学校の先生は、親や子供の言うことが聞こえているだろうかと思った。例えば、先ほどカウンセラーの先生を配置し、いつでも相談に行ける体制は整っているかもしれないが、ケアが必要な子供がそこまで行けないかもしれない。また、子供に苦手なことがあったときに、こちらの努力不足や過保護だと思われるのではないかと危惧し、先生に言えない部分もあるのではないかと思う。先生と子供、親の関係は、決して対等と言えないため、実は配慮いただきたいことがあっても言えないような状況が、見えない中でたくさんあるのではないかと思う。

次に、学校の常識が、もしかしたら社会の非常識である可能性がある。今回の件を扱うニュースやネット等で、そういった意見も目にしており、考えなければならないように思う。

最後に、学校にはもっとサポーターがいるのではないかと、先生が限界を迎えているところもあるのではないかということである。教員養成の仕事を通じて、本気で教員になりたい学生がいる一方で、自分に教員の職務が果たせるだろうかと考える学生もいる。一人の先生が一人の子供に全て付きっきりというのは、限界があるのかもしれない。しかしながら、地域には、支えたいと思ってくださる方や様々なスキルを持った方がいらっしゃる。学校を開いていき、支えてくれてくださる方に私たちもSOSをお願いし、そうした連携

をさらに強めていく必要があるのではないかと考える。

(松下教育長)

学校や教職員が、保護者や子供の声を聞き、聞いた上でどうするのかというところが最も大事だと思っており、それは先ほどより申しあげている教職員の心構えにもつながってくると思っている。

4人の教育委員さんがおっしゃっていただいた「なぜこうした事故を起こしてしまったのか。」ということを考えるに当たり、保護者や子供の声、社会の声、そうしたものをきちんと聞いて、それを意識として変えることをずっと大事にしていくことが必要と思う。

学校へのサポートや協力をしたいと思っている方はたくさんおられる。今までも、組織として様々な形で沢山のご協力をいただきながら、学校を運営してきた。今回のことを受けて、教員が一人で抱えるのではなく、皆で子供たちを育てるということを大切にしたいと思っている。

ご質問いただいた、中学校のプールで小学生が授業を行うことに対する保護者からの声については、事務局で何か把握しているか。

(竹内教育次長)

現状こちらで把握していることは不確かなところもあるため、この後の調べ等が進められる中で明らかになったことについてお伝えさせていただきたい。

(桑名市長)

それぞれの委員の皆様方からご意見をいただいた。

いくつかの気付く機会というものがあったはずだが、それが見逃されてしまい、起きてしまった事故であったと思う。どこかで立ち止まれば、この事故というものは防げたのではないかと知っている。しかし、どうしてこれが見逃されてきたのかというところは、これからしっかり考えていかなければならない。

個人の教員の危機感のなさか、教員の多忙さから来る手続きの簡略化によるものか、先ほど西森委員からあった職場で気付いたことを言えないような状況であったのか。いろいろな要因があるかと思うが、今後気付いたときには、そこで一度立ち止まるということが大切であり、これから教育現場でしっかり行われていかなければ、また同じような事故が起こってしまうのではないかと改めて感じたところである。

そうしたことも含めて、これから第三者検討委員会を立ち上げ、対応策を進めていく。また、野並委員の方から御意見いただいた、時系列的に詳細に分析をして対応していくということも大事である。

今回、教育委員会の中に、第三者委員会を設置することとなった。市長部局に設置すべきではないかという声もあったが、水泳の授業に係る問題もあるため、教育委員会の独自

性、独立性を考慮して、教育委員会内に組織を設置するものである。今後議会で諮る予定だが、報告書等を作成する際は、教育委員会で作成するのではなく、第三者に委託をして、報告書も公平、中立なものを作っていこうと考えているところである。第三者委員会で検討を進めながら、時機を見て、総合教育会議の皆様方にも報告をしながら進めてまいりたい。

(西森委員)

教育長にお伺いしたい。

私は、やはり声を上げることができる職場に思いを巡らせる。多くの人々が、皆がそれぞれに気を張り、知恵を集めることができれば、かなりのことに対処していけるのではないかと思う。

現場を知っておられる教育長の立場として、新学期が始まる時、あるいは始まる前に、学校で今度何かするとき、教員からせめて一つでも声が上がるような、そういう組織にしていくにはどうしたらいいと考えているか。あるいは、既にそうした体制がとられているのであれば、どのように維持していくのかということについて、考えがあれば教えてください。

(松下教育長)

私が教諭として務め、そして校長として務めた経験から述べさせていただきます。

職員会で、校長がいきなりこうしますと言うことはあまりなく、様々な部署でまず原案を作成し、その原案について学校内の組織内で検討が行われ、各部署の代表が集まった運営委員会で話し合われたうえで、職員会へ提出され、その職員会の中で、各組織にもう一度持ち帰るという流れで行われる。

今回のことについて、学校の中で長年培われてきた危機管理や危機意識が出せる場面が働かなかったのか、もしくは働いていたがこの事故が起きたのか、そこについては検証していくことになるが、やはり教員がおかしいと思ったときに声が上げられるようにしていかなければならないと思う。

先ほど市長が立ち止まるという言葉が使われた。学校の中で、子供の安全に関わることだけは、本来そのようにやらなければいけなかったが、機能していなかったということについては、しっかりと検証しなければいけない。

西森委員のご質問に答えるとすれば、本来、学校がこれまで培ってきた危機管理ができていなかったとすれば、それが機能しなかったことを突き詰めない限り、私たちの反省にならないと思っている。校長会とともに教育委員会がリーダーシップを取りながら取り組む必要がある。

(西森委員)

取り組んでいただけるということで承知した。

ただし、私もいろいろな会議に出席する中で、上位の会議になればなるほど、既に多くの会や委員会等を経ているため新たな意見や指摘は出てこないだろうという前提で会議が進められることが多いと感じる。その段階で覆す勇気のある人はほとんどいない。いろいろな部署を経てきているから大丈夫だろうという、ここに隙がありはしないかということをあえて指摘申し上げたい。各部署で原案が作成され、運営委員会も通過し、職員会に提出されたものであるため問題ないだろうという雰囲気ではなく、ここで見落としがないか、必ず1、2点は指摘してほしいという態度で臨んでいただきたい。

(谷委員)

教育委員会の組織においてもライン機能とスタッフ機能があり、トップダウンで進める指揮系統の間に、意思決定者を補佐するためのスタッフ機能がある。西森委員のご意見のとおり、何らかの事業を始めるとき、「ちょっと待ってください」「この点は大丈夫か」と言える組織というのはとても大事だと思っている。

第三者による事故検証委員会の設置にあたり、私が危惧したのは、教育委員会内だけで作り上げてしまうと既存の体制を刷新できないのではないかという点だった。公平中立に、市長部局も共に取り組んでいくという話をお聞きし、有難いと思うと共にそうした視点が必要だと思っている。

(桑名市長)

今度の第三者委員会をはじめ、それを運営する重大事案検証室においても、市長部局の方から、検証担当副参事や法務担当、広報担当も配置・併任している。

教育委員会内にはあるが、全庁を挙げてこの問題に対応していくので、御理解をいただきたい。

(森田委員)

今までの話を聞いて思ったが、様々なことを懸念しながらも、親として子供を送り出すことがある。親としては、先生に敬意を払っている分対等な関係ではなく、遠慮してしまう部分も多く、親子も弱い立場にあると感じている。そうではなく、対等な関係づくりがあると、もっと声も出やすいのではないかと思う。何かをするときに、サポートや支援も必要になっていくと思うが、やはりマンパワーが足りない状況下で、親子も言葉を飲み込む場面があるということを、学校が再認識することが大事ではないかと思う。親子の声を見過ごし、言えなかった言葉の中に、次の事故が起こる可能性を孕んでいるかもしれない。

(松下教育長)

言えなかったこともあると思っている。意識をどう変えるかということにつながってくると思うが、何よりも安全のことについては特に言っていただけるような組織になるようにしていきたい。言って何かが変わる可能性があるという期待を持っていただける

ことで、子供の安全を守る目が届いている組織になるのだろうと思う。様々な観点から、安全のことをより考えなければいけないと思う。

(野並委員)

今回のケースとは異なるが、児童というのは、とにかくすくすく育ち元気はつらつだという印象を持つが、同時に、命そのものは非常に儂い側面がある。ちょっとしたことで、いろんなショックが起きる要素も常にあるのだということを知っておく必要がある。元気に走り回っている子たちに、急に何か起きてしまう状況を常に描いておくことが必要だろうと思う。運動するだけでアナフィラキシーショックを起こすケースや、暑さ寒さで迷走神経反射を起こすといったケースも想定しておかなければならない。常に最悪を想定しておくことを再認識する必要があると思う。

また、医師会としては、学校医を通じて、お子さんの健康面などにより深く関与していく必要があると考えている。

(桑名市長)

それぞれの委員の皆様方から貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

水泳の授業だけでなく、教育現場は他にも危険というものが潜んでおり、それに対して、常にこれは危険ではないかという危機意識を持ち続ける学校現場でなければいけない。

そして、先ほどからご意見のある、何かこれは違うのではないかと思ったときに、立ち止まる勇氣、立ち止まる決断をしていかなければならないと改めて感じたところである。

教育長だけではなく、市政全般を扱う市長として、責任感と危機意識を持ち、これからの子供たちの未来を、大人たちが絶つことのない高知市を作っていくことをこの場で誓いたい。

これから第三者委員会が立ち上がるが、都度皆様方に報告をさせていただき、御意見を頂戴したいと思うので、よろしく願います。

● 閉会